



学校だより

# 伸びゆく子

令和元年11月29日  
横浜市立中沢小学校  
12月 号

## 「あいさつ」の取組から考えたこと

校長 小倉 克彦

本格的な冬を感じさせる冷たい風が吹くようになりました。保護者・地域の皆様、お元気で過ごしてでしょうか。

さて、中沢小学校では学校教育目標の「ひびきあい」を受けて「つたえよう」「わかりあおう」「つながろう」という素敵な言葉を昨年度、児童会の子どもたちが中心になって考えてくれました。この言葉には友だち、先生、地域の方々と積極的にコミュニケーションし、あたたかなつながりを作っていこうという願いが込められています。この目標の実現に向けて今年の児童会では「あいさつ」をテーマに様々な工夫をしながら取組をすすめています。先月、わたしに児童会運営委員の6年生から「あいさつ」の取組に関する依頼がありました。「朝会でのわたしたちのあいさつをその場で○か×か採点してほしい」とのことでした。

当日、朝会開始の時間が近づくと子どもたちがクラスごとに体育館に入場してきます。「子どもたちがあいさつの取組をどれくらい意識しているかな」と期待と不安の気持ちで待っていましたが、体育館に向かう廊下からは次々に「おはようございます」という元気な挨拶が聞こえました。そして、朝会開始の時は張りのある力強い声であいさつをすることができました。「あいさつの取組」をしっかり意識して朝会に臨んでいる意気込みがはっきりと伝わりました。

わたしは子どもたちの意気込みがとても嬉しくて「二重丸」と即答したい気持ちでしたが、それを抑え「一人ひとりがしっかり挨拶できたかどうか教室にもどって振り返り、自分たちで判断してください」と話し、朝会のお話を終えました。

その日の休み時間。6年生が二人、校長室を訪ねてきました。「朝会の後、クラスで挨拶について話し合ったので報告にきました」「たくさんの方がしっかりあいさつできた。と振り返りました。しっかりできなかったと考えた人もあいさつをしなかったのではなく、もっとしっかりしたいと前向きに考えていました」とのこと。6年生が「あいさつ」の取組に真剣に向き合っていたこと、朝会のわたしの話にクラスで話し合っただけで回答してくれたことをとても頼もしく思いました。「つたえよう」「わかりあおう」「つながろう」の実現に向け、最上級生が率先して取り組んでいることがとても嬉しかったです。

先月行った全校遠足でも6年生が下級生一人ひとりに気配りをしながら、下級生にあたたかく励ましの声をかけながら活動をすすめていました。自分たちが全校をリードするという意気込みがたくさん伝わりました。本年度の学校生活も3分の2を通過しようとしています。中沢小学校の子どもたちは6年生中心にめあての実現に向けて一歩ずつ成長しています。

いよいよ今年も最後の月になりました。子どもたちが自分たちの成長に気づき、自信をもって学校生活を送れるよう職員一同力をあわせて努力いたします。今月もよろしく願います。